

基礎分野

(社会学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	高木 裕貴				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	医療を含むあらゆる社会活動は、近代社会という特定の文脈のもとで成立している。とりわけ医療という分野は、医療技術の発展にともなう社会問題の医療化や、グローバル化の進展にともなう社会構造の変動など、社会現象と不可分に結びついており、近代社会に対する理解が、よりよい医療の実現にとって重要な条件となる。そこで本授業では、社会学の考え方を簡単に概観した後、社会学の各トピックを横断的に扱うことで、社会学の問題意識や考え方を、身の回りの事象を捉えて理解するための導きとし、職業人としての自らの判断に役立てられるようになることを目指す。				
教 科 書	なし				

具体的な到達目標	
目標 1	社会学で用いられる諸概念の内容を説明することができる。
目標 2	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象を分析して説明することができる。
目標 3	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象に対して自ら判断をくだし、その根拠を説明することができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	85		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	15 算出方法	欠席ごとに一点減点	算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			

実務経験
をいかした
教育内容

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		イントロダクション；社会学とは何か	
2		社会的行為とは何か	
3		社会学の役割は何か	
4		社会秩序はいかにして可能か	
5		家族の社会学	
6		教育学の社会学	
7		職業・労働の社会学	
8		ジェンダーの社会学	
9		民族・エスニシティの社会学	
10		メディアの社会学	
11		都市の社会学	
12		グローバリゼーションの社会学	
13		宗教の社会学	
14		医療の社会学	
15		まとめ：社会学から何を学ぶか	
その他の事項			

動画授業では、授業プリントを配布します。試験では論述問題を出题予定です。

基礎分野

(生物学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	益田 敦子				
授業形態	講 義	教 室	実施教室を選択		
授業目的	生物学とは、生物がどのようなしくみで生命活動を営んでいるかを探求する学問であるが、本講義では、主に生物の体がどのような物質でできているか、また生物の基本単位である細胞の各細胞小器官の構造と働き、増殖の方法を学ぶ。さらに原核生物、真核生物、ウイルスの違いについて学ぶことにより生物の基礎知識を身につける。これらの基礎知識は医療系学生が主に生理学、解剖学を学ぶ際の理解の助けとなることが期待される。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	生物の特徴について説明できる。
目標 2	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）それぞれの構造や性質について説明できる。
目標 3	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）、それぞれの生体内における働きを説明できる。
目標 4	細胞膜の構造について説明できる。
目標 5	細胞膜における物質輸送について説明できる。
目標 6	細胞小器官について、それぞれの形態の特徴と機能を説明できる。
目標 7	原核生物と真核生物の違いを説明できる。
目標 8	細菌の構造について説明できる。
目標 9	ウイルスの構造と特徴について説明できる。
目標 10	細胞の増殖の仕方（体細胞分裂、減数分裂）について説明できる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	85%			
平常点	15%	算出方法	授業態度により判定	算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験				
実務経験	有	☐	無	☐
教員の实務経験				
実務経験をいかした教育内容				

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、生物の特徴、トピック（ブタ心臓移植と iPS 細胞の脊髄移植について）	
2		生体を構成する物質全体について、水の性質と生体内における働き	
3		タンパク質の構造と性質 タンパク質の種類と生体内における働き	
4		糖質（単糖類、二糖類、多糖類）の構造と性質、糖質の生体内における働き	
5		脂質（単純脂質、複合脂質）の構造と性質	
6		脂質（誘導脂質）の構造と性質、脂質の生体内における働き、 無機質の生体内における働き	
7		細胞の発見と細胞説、細胞の大きさと形 細胞膜の構造と性質、細胞膜における物質輸送の方法	
8		核、リボソーム、粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ装置、リソソームの構造と働き 細胞内における物質の流れ	
9		ミトコンドリア、中心体、液胞、葉緑体、細胞壁、細胞骨格の構造と働き	
10		生物のタイプ：原核生物と真核生物、細菌の構造、ラン藻の構造、細胞の進化	
11		ウイルスの構造、特徴、分類とさまざまなウイルスについて	
12		細胞周期、体細胞分裂、染色体	
13		減数分裂、生殖細胞の形成	
14		復習	
15		復習	
その他の事項			
・生物学は専門科目ではないが、生理学、解剖学の理解の助けになるので、しっかり勉強して下さい。 ・パワーポイントを印刷したものを、配信後ほどなく配布するので、復習に利用して下さい。 ・ほぼ隔週の対面授業では、復習や質問に対する対応を行なう。			
推薦図書 絵でわかる細胞の世界 黒谷明美著 講談社サイエンティフィク 2001 年発行 医学を学ぶための生物学 谷口直之、米田悦啓編集 南江堂 2004 年改訂第 2 版発行			

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	高橋佑輔				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業においては医学の基礎となる解剖学のうち、「骨・筋・関節」といった運動器について重点的に学び、国家試験に対応できる学力はもちろんのこと、他科目及び臨床・実技授業においても土台となる運動器の知識を修得する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 解剖生理 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	骨の構造と特徴について説明することができる。
目標 2	筋の構造、起始・停止・作用・支配神経について説明することができる。
目標 3	関節の構造と働きについて説明がすることができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70%		70%		
平常点	30%	算出方法	30%	算出方法	
		小テスト（1回）		小テスト（回数未定）	
		※その他の事項要確認		※その他の事項要確認	
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の実務経験			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバス及び科目の概要について説明を受ける。	
2		人体の区分・切断面及びそれらを示す際の解剖学的用語について学ぶ。	
3		骨の形状についての用語、骨組織の構造・特徴・部分名称・連結について学ぶ。	
4		脊柱の構成や機能、椎骨の基本形態・連結について学ぶ。	
5		各部の椎骨（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨）の構造・特徴について学ぶ。	
6		胸骨、鎖骨の構造・特徴について学ぶ。胸郭の全体像及び運動について学ぶ。	
7		上肢帯の骨（鎖骨、肩甲骨）、自由上肢の骨（上腕骨）の構造、特徴について学ぶ。	
8		自由上肢の骨（橈骨、尺骨、手の骨）の構造・特徴について学ぶ。	
9		下肢帯の骨（寛骨）、自由下肢の骨（大腿骨、膝蓋骨）の構造・特徴について学ぶ。	
10		自由下肢の骨（脛骨、腓骨、足の骨）の構造・特徴について学ぶ。	
11		脳頭蓋を構成する骨（前頭骨、頭頂骨、後頭骨、側頭骨、蝶形骨、篩骨）の構造・特徴について学ぶ。	
12		顔面頭蓋を構成する骨（鼻骨、涙骨、頬骨、上顎骨、下顎骨、舌骨）の構造・特徴について学ぶ。	
13		上肢の関節（肩関節～手指の関節）の構造と働きについて学ぶ。	
14		下肢の関節（股関節～足趾の関節）の構造と働きについて学ぶ。	
15		体幹（頸部・胸腰部）の関節の構造と働きについて学ぶ。	
16		前期試験範囲の復習	
T		前期試験	
17		前期試験の解答・解説、筋の構造・神経・作用と運動について学ぶ。	
18		上肢帯の筋（棘上筋、棘下筋、小円筋、三角筋、肩甲下筋、大円筋）、 上腕の筋（烏口腕筋、上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋）の起始、 停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
19		前腕の筋（円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、浅指屈筋、尺側手根屈筋、深指屈筋、 長母指屈筋、方形回内筋、腕橈骨筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、 小指伸筋、尺側手根伸筋）、前腕の筋（回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、 示指伸筋）、手内筋（短掌筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋、掌側骨間 筋、背側骨間筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
20		上肢の筋まとめ	
21		下肢帯の筋（腸腰筋、大・中・殿筋、大腿筋膜張筋、梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、 下双子筋、大腿方形筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
22		大腿の筋（縫工筋、大腿四頭筋、膝関節筋、恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、 薄筋、外閉鎖筋）、大腿の筋（大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋）の起始、停止、走	

		行、作用、支配神経について学ぶ。
23		下腿の筋（前脛骨筋、長母趾伸筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長腓骨筋、短腓骨筋）、下腿の筋（下腿三頭筋、足底筋、膝窩筋、後脛骨筋、長趾屈筋、長母趾屈筋）、足内筋（短母趾伸筋、短趾伸筋、母趾外転筋、短母趾屈筋、母指内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋、背側骨間筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
24		下肢の筋まとめ
25		胸筋（大胸筋、小胸筋、鎖骨下筋、前鋸筋、外肋間筋、内肋間筋、最内肋間筋、肋下筋、胸横筋、肋骨挙筋、横隔膜）、腹筋（腹直筋、錐体筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、腰方形筋）、会陰筋の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
26		背筋（僧帽筋、広背筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、上後鋸筋、下後鋸筋、板状筋、脊柱起立筋、横突棘筋、小後頭直筋、大後頭直筋、上頭斜筋、下頭斜筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
27		顔面部の筋（前頭筋・眼輪筋・鼻筋・頬筋・口輪筋・広頸筋・咀嚼筋など）の概要、頸部の筋（広頸筋、胸鎖乳突筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群、斜角筋、椎前筋、項部の筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
28		体幹・顔面・頸部の筋まとめ、眼窩部、鼻部、顎下三角、顎動脈三角、筋三角、後頸三角について、その構成や通過物、周囲の器官等を学ぶ。
29		筋裂孔、血管裂孔、大腿三角、内転筋管、大・小坐骨孔、膝窩、下腿の筋区画について、その構成や通過物、周囲の器官等を学ぶ。
T		後期試験
30		骨・筋まとめ

その他の事項

<小テストについて>

- ・前期 対面時の授業内で1回行う。
小テストの結果を30%換算したものを平常点とする。
- ・後期 現時点で回数は未定であるが対面時の授業内で行う。
小テストの平均点を30%換算したものを平常点とする。
- ・担当者メールアドレス
takahashi@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	金井 優也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業においては、医学の基礎となる解剖学のうち、「循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系」を重点的に学ぶ。本授業では、国家試験に対応できる力を育成することのみならず、他科目と確実に連携できることを目的として実施し、頭の中で人体の各臓器の構造が3次元で構成できることを最終的な目標とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会 解剖生理 第1版				

具体的な到達目標	
目標1	細胞、組織の構造について理解し説明することができる。
目標2	心臓の構造を理解し説明することができる。
目標3	全身の血管系の流れを理解し説明することができる。
目標4	血管の構造を理解し説明することができる。
目標5	リンパ系の役割・各種リンパ系器官の構造を理解し説明することができる。
目標6	呼吸器の流れ、各呼吸器系器官の構造を理解し説明することができる。
目標7	各消化器官の構造や流れについて理解し説明することができる。
目標8	各泌尿器官の構造や流れについて理解し説明することができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	100%		100%	
平常点	—	算出方法 —	算出方法	—
出席点	—	算出方法 —	算出方法	—
その他	—	算出方法 —	算出方法	—
試験日	—			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験				
実務経験	有	☒	無	☐
教員の实務経験				
実務経験をいかした教育内容				

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅠ。ガイダンス。	
2		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅡ。 第5章循環系：循環の概要と血管の構造について学ぶ。	
3		第5章循環系：血管の構造と吻合、門脈の概要について学ぶ。	
4		第5章循環系：心臓の構造(位置・心膜・壁)について学ぶⅠ。	
5		第5章循環系：心臓の構造(房室・弁・刺激伝導系)について学ぶⅡ。	
6		第5章循環系：心臓の構造(心臓血管)について学ぶⅢ。	
7		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（大動脈・胸大動脈）について学ぶⅠ。	
8		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（腹大・上肢の動脈）について学ぶⅡ。	
9		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（総腸骨動脈）について学ぶⅢ。	
10		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（上半身・下半身）について学ぶⅣ。	
11		第5章循環系：静脈と胎児循環について学ぶ。	
12		第5章循環系：リンパ系(総論)について学ぶ。	
13		第5章循環系：リンパ系(リンパ節・脾臓)について学ぶ。	
14		第5章循環系：リンパ系(胸腺・扁桃)について学ぶ。	
15		第5章の総復習。	
16		第7章呼吸器系：鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭について学ぶ。	
17		第7章呼吸器系：気管系・肺について学ぶ。	
18		第8章消化器系と代謝・栄養：消化管の壁構成について学ぶ。	
19		第8章消化器系と代謝・栄養：口蓋・軟口蓋・舌について学ぶ。	
20		第8章消化器系と代謝・栄養：歯・唾液腺・咽頭について学ぶ。	
21		第8章消化器系と代謝・栄養：食道・胃について学ぶ。	
22		第8章消化器系と代謝・栄養：小腸について学ぶ。	
23		第8章消化器系と代謝・栄養：大腸について学ぶ。	
24		第8章消化器系と代謝・栄養：肝臓・胆嚢について学ぶ。	
25		第8章消化器系と代謝・栄養：膵臓の・腹膜について学ぶ。	
26		第8章消化器系と代謝・栄養：消化器の位置・構造等を総括的に学ぶ。	
27		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅠ。	
28		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅡ。尿路(尿管)について学ぶⅠ。	
29		第9章泌尿器系：尿路(膀胱・尿道)について学ぶⅡ。	
30		第7章・8章・9章の総復習。	

その他の事項

解剖学は形態・構造の理解を目指す学問です。人体の構造に対する知識は、すべての医学分野の学習において欠く事のできないものと考えます。何度も反復学習することが重要になります。何か不明な点がございましたら分からないままにせず、気軽に質問していただけたらと思います。

担当教員メールアドレス : y-kanai@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	田中 童菜				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	「生理学」は生命現象の働きや作用機序について研究した学問であり、現代医学では基礎科目に分類される。 本授業では、代謝・内分泌・生殖・神経の各分野について、健康成人の生理学的な人体の仕組みを学習する。 臨床現場では患者が持つ疾患・症状の機序の説明や、他の医療従事者と連携をとる際にも必要な知識となり、 また、あはき施術の効果を現代医学的に解釈する上でも非常に重要な科目である。 あはき師として、臨床時に患者の病態・施術を考える際に必要な基礎知識を身につける目的で授業を行なう。				
教 科 書	東洋療法学校協会 編、解剖生理 第1版、医歯薬出版 株式会社				

具体的な到達目標	
目標1	第8章：ATPを合成する過程について説明することができる。
目標2	第8章：ビタミン・ミネラルの役割について説明することができる。
目標3	第10章：ホルモンの種類と、その働きを説明することができる。
目標4	第10章：ホルモンの分泌器官・標的組織・分泌調整の流れを説明することができる。
目標5	第11章：月経周期とホルモンの関係を説明することができる。
目標6	第11章：受精から分娩後のホルモンによる身体変化について説明することができる。
目標7	第3章：活動電位の発生メカニズム、静止電位の成因を説明できる。
目標8	第3章：神経の興奮伝導、シナプス伝達の生理学的特性について説明することができる。
目標9	第3章：中枢神経系の部位ごとに働きを説明することができる。
目標10	第3章：末梢神経系(脳・自律神経)の各機能を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	期末試験 100%	期末試験 100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成学科附属治療院で2年、あはき整骨院で2年間、出張開業で1年の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	代謝・栄養疾患、内分泌疾患、婦人科疾患、神経疾患など広い範囲へ繋がる内容となります。 臨床時に想定される患者像と授業内容を、可能な限り関連付けながら進めていきます。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、第8章 B.代謝と栄養-1.代謝とは	P. 226
2		第8章 B.代謝と栄養-2.糖質	P. 226～227
3		第8章 B.代謝と栄養-3.脂質, 4.タンパク質	P. 228～229
4		第8章 B.代謝と栄養-5.ビタミン, 6.ミネラル	P. 230～231
5		第8章 B.代謝と栄養「まとめ」	
6		第10章 A.内分泌系の総論	P. 244～247
7		第10章 B.内分泌系の各論-1.視床下部と下垂体	P. 247～249
8		第10章 B.内分泌系の各論-2.甲状腺と副甲状腺, 3.ランゲルハンス島(膵島)	P. 250～253
9		第10章 B.内分泌系の各論-4. (1～3)副腎皮質	P. 253～255
10		第10章 B.内分泌系の各論-4. (4)副腎髄質, 5.その他のホルモン	P. 255～256
11		第10章 B.内分泌系の各論-6.ホルモンによる体液の調整, 第10章「まとめ」	P. 256
12		第11章 A.生殖とは	P. 262～269
13		第11章 B.妊娠と発生	P. 269～273
14		第11章 C.生体のリズムと加齢変化	P. 273～276
15		第11章 「まとめ」	
16		第3章 A.神経系と神経組織-1.神経系の分類, 2.神経組織	P. 82～84
17		第3章 A.神経系と神経組織-3.神経細胞の興奮と伝導, 4.シナプス伝達	P. 84～87
18		第3章 B.中枢神経系-1.中枢神経系の構造, 2.中枢神経系の統合機能	P. 87～89
19		第3章 B.中枢神経系-3.大脳 (1)大脳の構造, (5)大脳の白質, (2)新皮質	P. 89, 92/P. 90～
20		第3章 B.中枢神経系-3.大脳 (2)新皮質, (3)大脳辺縁系, (4)大脳基底核	P. 90～92
21		第3章 B.中枢神経系-4.間脳, 6.小脳	P. 93, 95～96
22		第3章 B.中枢神経系-5.脳幹	P. 94～95
23		第3章 B.中枢神経系-7.脳波と睡眠, 8.脊髄, 9.中枢神経系の保護と栄養	P. 96～100
24		第3章 A, B「まとめ」	
25		第3章 C.伝導路と運動調節-1.運動性の下行路, 2.感覚系の伝導路	P. 100～103
26		第3章 C.伝導路と運動調節-3.骨格筋の神経支配, 4.運動反射	P. 103～106
27		第3章 D.末梢神経系-1.脳神経	P. 106～112
28		第3章 D.末梢神経系-3.自律神経系	P. 121～
29		第3章 D.末梢神経系-3.自律神経系	P. 121～
30		第3章 C, D「まとめ」	

その他の事項

「第3章 D. 末梢神経系-2. 脊髄神経」の項目は2年生の解剖学で行ないます。

授業の補足資料や過去の国家試験の内容も随時 A4 サイズで配布します。予習・授業中・復習に活用してください。

専門用語に慣れることが、内容理解への第一歩です。焦らずに確認・復習を行なっていきましょう。

勉強するための環境や仕組み作りも大切です。ご自身に合ったものを今から構築していきましょう。

メールアドレス : tanaka-w@butsugen.or.jp

専 門 分 野

(経絡経穴概論) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	8 0
担当教員	下宮 啓佑				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	経絡経穴概論は、あま指学を学ぶ上で重要な柱の１つである。経穴は、身体各部の状態が体表上に反映される部位であり、同時に、刺激をすることで身体各部に影響を与えることができる、診断・施術において重要なポイントである。本講義では経絡の種類、作用、流れ、経穴の名称、部位、意義を学び、臨床において経穴を応用できる基礎知識を身につける。				
教 科 書	「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）				

具体的な到達目標	
目標1	督脈・任脈の流注、部位を覚える。
目標2	手の太陰肺経～足の厥陰肝経までの経絡の流注、部位を覚える。
目標3	取穴する上で必要な骨度法を覚える。
目標4	五行穴、五要穴を覚える。
目標5	奇経八脈・奇穴を覚える。
目標6	経絡経穴の現代的研究を覚える。
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80%		80%		
平常点	20%	算出方法	20%	算出方法	小テスト
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、経絡経穴の概要①	
2		経絡経穴の概要②、骨度法	
3		督脈の流注・経穴名・部位について①	
4		督脈の流注・経穴名・部位について②	
5		任脈の流注・経穴名・部位について①	
6		任脈の流注・経穴名・部位について②	
7		手の太陰肺経の流注・経穴名・部位について	
8		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について①	
9		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について②	
10		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について①	
11		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について②	
12		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について③	
13		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について①	
14		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について②	
15		手の少陰心経の流注・経穴名・部位について	
16		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について①	
17		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について②	
18		督脈～手の太陽小腸経の復習	
19		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について①	
20		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について②	
21		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について③	
22		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について①	
23		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について②	
24		手の厥陰心包経の流注・経穴名・部位について	
25		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について①	
26		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について②	
27		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について①	
28		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について②	
29		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について③	
30		足の厥陰肝経の流注・経穴名・部位について	
31		足の太陽膀胱経～足の厥陰肝経の復習	
32		五行穴・五要穴について	
33		その他の要穴について	
34		胸腹部の横並びについて	

35		腰背部の横並びについて
36		紛らわしい経穴について
37		奇経八脈について
38		奇穴について①
39		奇穴について②
40		経絡経穴の現代的な研究について

その他の事項

--

専 門 分 野

(東洋医学概論Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0 時間	実施時間数	8 0 時間
担当教員	棟居 清峰				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	鍼灸・あん摩マッサージ指圧は東洋医学の一翼を担う。そのため鍼灸・あん摩マッサージ指圧の知識・技術を習得するためには東洋医学の基礎理論を理解することが必要である。そこで1年次では東洋医学的な自然界の物の見方、および臨床で必要となる身体の生理・病理、東洋医学的診察について基本的な項目を学習する。				
教 科 書	新版『東洋医学概論』（東洋療法学校協会編）医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標 1	東洋医学の基本的な考え方が説明できる。
目標 2	東洋医学的な生体物質・身体の仕組みについて説明できる。
目標 3	陰陽学説・五行学説について説明できる。
目標 4	経絡について説明できる。
目標 5	東洋医学的な病の原因・病の発生のメカニズムを説明できる。
目標 6	臓腑の病証を説明できる。
目標 7	経脈の病証を説明できる。
目標 8	四診の意義、方法を説明できる。
目標 9	四診から基本的な病証の判別ができる。
目標 10	東洋医学的な身体観を説明できる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80 %		80 %		
平常点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
出席点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
その他	20 %	算出方法	課題提出を20 %分に換算する。	20 %	算出方法
試験日	別途、設定する。		別途、設定する。		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて9年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて2年間、往診専門で2年間、本校附属治療所で12年間の実務経験あり。

**実務経験
をいかした
教育内容**

鍼灸臨床の現場における東洋医学的な身体・病態の見方、診察法について具体例を示し、2年次から始まる臨床実習に繋げる授業を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション、東洋医学の特徴、人体の見方	
2		生体物質 1（精・気・血・津液）	授業内容の予習・復習
3		生体物質 2（精・気・血・津液）、神	授業内容の予習・復習
4		蔵象 五臓（肝・心）	授業内容の予習・復習
5		蔵象 五臓（心包・脾・肺）	授業内容の予習・復習
6		蔵象 五臓（腎）	授業内容の予習・復習
7		蔵象 六腑（胆・小腸・胃）	授業内容の予習・復習
8		蔵象 六腑（大腸・膀胱・三焦）・奇恒の腑	授業内容の予習・復習
9		陰陽学説・五行学説 陰陽の相互関係、人体・病・診断治療における陰陽について	授業内容の予習・復習
10		陰陽学説・五行学説 五行の分類・関係について	授業内容の予習・復習
11		陰陽学説・五行学説 五行色体表	授業内容の予習・復習
12		経絡	授業内容の予習・復習
13		病因・病機（外感病因）	授業内容の予習・復習
14		病因・病機（外感病因）	授業内容の予習・復習
15		病因・病機（内傷病因・内生五邪）	授業内容の予習・復習
16		八綱弁証（表証・裏証、寒証・熱証）	授業内容の予習・復習
17		八綱弁証（虚証・実証、陰証・陽証）	授業内容の予習・復習
18		気血津液弁証（気の病証、血の病証）	授業内容の予習・復習
19		気血津液弁証（血の病証、津液の病証）	授業内容の予習・復習
20		臓腑弁証（肝・胆の病証）	授業内容の予習・復習
21		臓腑弁証（肝・胆の病証、心・小腸の病証）	授業内容の予習・復習
22		臓腑弁証（心・小腸の病証）	授業内容の予習・復習
23		臓腑弁証（脾・胃の病証）	授業内容の予習・復習
24		臓腑弁証（脾・胃の病証、肺・大腸の病証）	授業内容の予習・復習
25		臓腑弁証（肺・大腸の病証、腎・膀胱の病証）	授業内容の予習・復習
26		臓腑弁証（腎・膀胱の病証）	授業内容の予習・復習
27		経絡弁証（十二経脈）	授業内容の予習・復習
28		経絡弁証（十二経脈）	授業内容の予習・復習
29		経絡弁証（奇経八脈）	授業内容の予習・復習
30		四診（望診 各項目・舌診）	授業内容の予習・復習
31		四診（望診 舌診）	授業内容の予習・復習
32		四診（聞診 各項目）	授業内容の予習・復習

33		四診（問診の進め方、基本的問診事項）	授業内容の予習・復習
34		四診（基本的問診事項）	授業内容の予習・復習
35		四診（その他の問診事項）	授業内容の予習・復習
36		四診（その他の問診事項）	授業内容の予習・復習
37		四診（切診 反応・腹診）	
38		四診（切診 切経・脈状診）	授業内容の予習・復習
39		四診（切診 脈状診・比較脈診）	授業内容の予習・復習
40		東洋医学の沿革	授業内容の予習・復習

その他の事項

【提出物について】

課題提出は適宜実施し、提出期限厳守とします。

<連絡先>

munesue@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 4
担当教員	松尾 卓				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	「あん摩」はその適応の広さ、汎用性の高さから、数あるあん摩マッサージ指圧等の施術の中でも臨床現場において用いられることが多い施術法である。各種疾病や身体状況に応じて、様々な手技・方法を用いるが、そのほとんどは基本手技（軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手）の組み合わせやその応用から成り立っており、基本手技の重要性については疑う余地もない。また、それら基本手技を修得するための確実な方法は反復練習であると考え。 そのため、本授業では肢位毎（坐位・側臥位・腹臥位・仰臥位）に各部位（肩背部・頸部・腰殿部・下肢部）への基本・基礎的なあん摩施術を反復して実践し、あん摩施術の一連の流れの把握及び基本手技の修得を目指すものとする。				
教 科 書	教科書は指定しない 手拭い（初期購入品以外の物も可とする）と枕に引くハンカチ、シーツ（タオル）、フェイスシールドは毎回必ず持参すること				

具体的な到達目標	
目標1	あん摩施術の一連の流れを実施することができる。
目標2	施術面に対してしっかりと密着した軽擦法を行うことができる。
目標3	手首を柔軟に用いた揉捏を行うことができる。
目標4	素早く軽やかな叩打法を行うことができる。
目標5	患者役の呼吸・感受性に合わせた圧迫法を行うことができる。
目標6	各関節のおおよその可動範囲を理解し、安全な範囲の中で運動法を行うことができる。
目標7	適切な姿勢・手の形で各種曲手を行うことができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70%		70%		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	30%	算出方法 1回毎に欠席-2点、遅刻-1点	30%	算出方法 1回毎に欠席-2点、遅刻-1点	
その他	算出方法		算出方法		
試験日					

※追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸アマ指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で9年以上の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手といったあん摩施術における基本的手技を中心に実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	シラバス説明及びあん摩施術の概要、手指各部の名称及び上手・下手等の用語の学習	
2	あん摩の基本手技の概要・目的・実施方法についての学習	
3	坐位における肩背部へのあん摩施術の練習	
4	前回内容（坐位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
5	坐位における頸部へのあん摩施術の練習	
6	前回内容（坐位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
7	坐位における上肢部へのあん摩施術の練習	
8	前回内容（坐位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
9	側臥位における肩背部へのあん摩施術の練習	
10	前回内容（側臥位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
11	側臥位における頸部へのあん摩施術の練習	
12	前回内容（側臥位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
13	側臥位における上肢部へのあん摩施術の練習	
14	前回内容（側臥位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
15	前期実技試験、前期学習内容の復習	
16	前期実技試験、前期学習内容の復習	
17	側臥位における腰殿部へのあん摩施術の練習	
18	前回内容（側臥位における腰殿部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
19	側臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
20	前回内容（側臥位における下肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
21	腹臥位における頸肩部へのあん摩施術の練習	
22	腹臥位における背腰部へのあん摩施術の練習	
23	仰臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
24	坐位における頭部へのあん摩施術の練習	
25	坐位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習	
26	側臥位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習	
27	側臥位における腰殿部・下肢部へのあん摩施術の練習	
28	側臥位におけるあん摩施術の通し練習	
29	腹臥位におけるあん摩の通し練習	
30	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
31	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
32	全身のあん摩施術の総復習	

その他の事項

通年であん摩の基礎実技を学んでいきますが、基本的に、授業内の時間だけでは施術できるようにはなりません。
授業外の放課後練習や自宅練習を行い、技術の研鑽に努めて下さい。

専 門 分 野

(マッサージ実技Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 4
担当教員	佐藤陽子				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	マッサージは術者の手指をもって生体の皮膚に直接、主として求心性の手技により血液、リンパ液の循環を改善させ、生体の変調を調え健康を保ち増進させる施術である。求心性の手技を強弱の刺激として生体に加えることにより、生体に多種多様の反応が期待できる。様々な状況に対して施されるマッサージ施術は、基本手技（軽擦法・強擦法・揉捏法・叩打法・振せん法・圧迫法）を組み合わせで成り立っており、基本手技の習得は不可欠である。本授業では、身体各部位に対する基本手技を繰り返し練習することで、マッサージの基本手技を習得することを目的とする。				
教 科 書	『あん摩マッサージ指圧実技 基礎編』医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標1	求心性に行う意味を説明できる。
目標2	関節を超えて施術をする意味を説明できる。
目標3	患者の皮膚に術者の手を密着させた軽擦法ができる
目標4	手関節の柔軟性を生かした揉捏法ができる。
目標5	関節の可動性を改善するための強擦法ができる。
目標6	末梢からのリンパ液、静脈血の還流を促進するための基本手技ができる。
目標7	各基本手技をスムーズにできる。
目標8	体を使って施術ができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	70%		70%	
平常点	算出方法		算出方法	
出席点	30%	算出方法	30%	算出方法
		欠課1回毎に2点減点。 遅刻および早退1回毎に1点減点		欠課1回毎に2点減点。 遅刻および早退1回毎に1点減点
その他	算出方法		算出方法	
試験日				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験				
実務経験	有	☒	無	☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。			

実務経験
をいかした
教育内容

臨床の場で必要となる相手への配慮を踏まえて、マッサージの基礎実技を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、マッサージの目的及び基本手技の説明	
2		基本手技の練習、軽擦法・揉捏法・強擦法を用いた施術	
3		基本手技の練習、手指・手部のマッサージ施術	
4		基本手技の練習、手指・手部のマッサージ施術	
5		基本手技の練習、手関節のマッサージ施術	
6		基本手技の練習、手関節のマッサージ施術	
7		基本手技の練習、前腕部のマッサージ施術	
8		基本手技の練習、前腕部のマッサージ施術	
9		基本手技の練習、肘関節のマッサージ施術	
10		基本手技の練習、肘関節のマッサージ施術	
11		基本手技の練習、上腕部のマッサージ施術	
12		基本手技の練習、上腕部のマッサージ施術	
13		基本手技の練習、肩関節のマッサージ施術	
14		基本手技の練習、肩関節のマッサージ施術	
15		基本手技の練習、上肢全体のマッサージ施術	
16		基本手技の練習、上肢全体のマッサージ施術	
17		基本手技の練習、足指・足背のマッサージ施術（仰臥位）	
18		前期復習	
19		前期実技試験、前期授業内容の復習	
20		前期実技試験、前期授業内容の復習	
21		基本手技の練習、足指・足背・足関節のマッサージ施術（仰臥位）	
22		基本手技の練習、足関節・下腿前側筋群・外側筋群のマッサージ（仰臥位）施術	
23		基本手技の練習、下腿前側筋群・外側筋群・膝関節のマッサージ（仰臥位）施術	
24		基本手技の練習、膝関節・大腿のマッサージ（仰臥位）施術	
25		基本手技の練習、大腿・股関節のマッサージ（仰臥位）施術	
26		基本手技の練習、足底部・下腿部後側筋群のマッサージ（伏臥位）施術	
27		基本手技の練習、膝関節・殿部のマッサージ（伏臥位）施術	
28		基本手技の練習、背腰部のマッサージ施術	
29		後期復習	
30		後期実技試験、後期授業内容の復習	
31		後期実技試験、後期授業内容の復習	
32		全体の復習	

その他の事項

○実習着・上履き：忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○身だしなみ：（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

専 門 分 野

(指圧実技Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	上田 恵介				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	本校オリジナルの指圧テキストを教材として用いる。解説はデモンストレーションを主とし、必要に応じて教材以外の資料を配付、板書等交えながら実施する。特に安全面に注意しながら、効率的な身体の使い方（体傾荷重）に主眼を置いた指導を行う。指圧は治療に適した療法である反面、必ず危険性を伴う。したがって安全に操作が行えるようになることを第一とする。その上でより治療的に見えるようになるための基礎（基本）を反復練習する習慣を身に付ける。				
教 科 書	京都仏眼鍼灸理療専門学校 指圧整体法テキスト				

具体的な到達目標	
目標1	指圧に関する基礎知識を説明できる。
目標2	安全に操作する方法を説明できる。
目標3	基本操作を手順通り行える。
目標4	基本操作を安全に行える。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて2年、鍼灸あま指治療院にて2年間、往診専門で開業5年、本校附属治療所で7年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。

授業の内容			
回数	内 容		備考
1	導入	オリエンテーション、授業概要の説明 指圧に関する基礎知識1 あま指の相違点、指圧法の成り立ち、押圧操作の三原則、方向・角度・深度など	ホームルーム教室
2	導入	指圧に関する基礎知識2 押圧の分析（基本図形）、手掌の名称、背部の名称など	
3	伏臥位（前半）	姿勢（術者・受者の姿勢、立ち位置）、脊柱検査、肩の安全確認	

4	〃	背部全体の掌圧（遠位側・近位側・脊柱）、体傾荷重について
5	〃	一側線の両母指圧
6	〃	二側線の両母指圧
7	〃	三側線の両母指圧
8	〃	肩甲骨周囲部の両母指間圧迫（内側縁）
9	〃	腰側線の両母指圧
10	〃	仙骨両側の両母指圧（挟み込み）
11	〃	下肢の掌圧及び母指圧操作固定に関して、固定の意義 （正中ライン：大腿の掌圧、膝の操作、委中・アキレスの1点圧、足裏の操作）
12	〃	（内側ライン：内股の掌圧、アキレスの手根圧）
13	〃	（外側ライン：大腿～下腿外側の掌圧）
14	前期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習
15	前期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習
16	試験後の総評	前期伏臥位総復習
17	伏臥位（後半）	肩上部、肩背部母指圧（T6,7～肩甲骨上角、肩上部、棘上部、1側線上部）
18	〃	上肢操作（腋窩押圧、上腕・前腕の掌圧）
19	〃	肩甲骨内側縁の母指圧
20	〃	一・二・三側線の両母指圧（治療的）、腰側線の両母指圧
21	〃	仙骨孔の4点母指圧（後仙骨孔の指標）
22	〃	下肢操作（大腿～下腿の掌圧、腓骨の巻き込み）
23	〃	下肢操作（足関節の回転運動、膝関節回転法）
24	〃	下肢操作（前脛骨筋の手根圧、下肢操作復習）
25	〃	大腿前面部伸展法、腰部伸展法
26	〃	後半総復習
27	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
28	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
29	試験後の総評	後期伏臥位総復習
30	指圧総合	指圧伏臥位通し

第2実技室

その他の事項

＜試験評価＞ 100%（クラスメイトまたは教員に対する施術を評価する）

○実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○身だしなみ：（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

＜教員メッセージ＞

「指圧実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術です。

自分の手1本で患者さんの身体を治療していく目標を掲げ、厳しくもやりがいのある指圧実技を限られた時間で学び取ってください！志し高く1年間一緒に頑張りましょう。」